第二章

本論

2.1　ポップカルチャー

文化は、知的な開発、精神的、美的、期間、またはマスターピースや知的な実行、特に芸術的な活動である。このように、文化的な活動の範囲は、芸術、文学、教育、快楽、スポーツ、組織、地域、性的志向、政治的、民族的、宗教的あるいは儀式を含めることができる。また、ポップカルチャーの芸術的な活動は例として詩、小説、バレー、オペラ、そして絵画などである。(Storey, 2003)

「ポピュラー」と言う言葉はポップカルチャーに議論されている最初の言葉である。ウィリアム氏によると、「ポピュラー」と言う用語を解釈するのは：多くの人々に好まれて、人々を喜ばせるために作品を作る。(Storey,2003:10)。

その上に、ポップカルチャーの定義は次のように説明されている：

１．ポップカルチャーは多くの人々に好まれて、楽しいカルチャーである。例として、人々が好きな小説はR&Bのシングルアルバムのようなベストセラーになった。そのため、ポップカルチャーの定義は、多くの人々に消費されるかどうか、定量的な次元を含めなければならない。ポップカルチャーのポップは前提条件の一つになった。

２．ポップカルチャーの第二定義は、サブ規格のカルチャーである。すなわち、文化が高い要件を満たさない文化的な実行を対応するために残留するカテゴリである。

３．ポップカルチャーは、大衆の文化である 。公衆である消費者のために公衆によって生産される文化である。この文化は、社会が受け入れる可能か否かを考慮せずに消費される。ポップカルチャーは、集団的な夢の世界だと考えられている。

４．ポップカルチャーは、ポストモダニズムの考えから来ていた。これは、もはや高い文化とポップカルチャーの違いを認識しないわけである。また、すべての文化は商業的な文化として強調されている。(Storey, 2003: 10-22)

ベストル（1989）によると、ポップカルチャーは、変化しているものである。多くの人々に好まれて消費された後、ポップカルチャーはすぐに高い文化に変化する。例えば、古代に相撲と歌舞伎のドラマは庶民の中でポップカルチャーである。しかし、現代は高い日本の芸術の文化になった。

2.2 消費主義者

消費主義者の定義は喜びと幸福の尺度としてライフスタイルが高級品と思われる。質素じゃないライフスタイルから形である。（インドネシア語の大辞典、1999:521)

消費主義者は、実際の需要に対して少し注意されて、ずっと商品やサービスを購入する経済の形である。物質主義は消費主義者から最終的な結果の一つである。

消費主義者の原因は誰もがこの商品を購入することによって物質財の達成のために終わらない需要に対して自分自身に反対した。例として、ダイエットセンター、整形手術、メイクアップ、ファッショナブルなど

である。一つの例として、人々は人間の消費の用具になって自分自身を変化した。

2.3 コギャルの定義

コギャルの用語は「コ」と「ギャル」と言う単語から来て、コ「高」は日本語で「高校」と言う単語からの略語で、「ギャル」は girl の英語で女の子を意味とする。「Kogal」はコギャルの用語として記事や雑誌で発見されて、しかも日本の口頭発音では「コギャル」だと呼ばれている。(Whitehead, 1998)

コギャルは通常、女子高校生のイメージを記述するために使用する。着用が制服船員、黒靴と白いルーズソックスである。しかし、現在、その定義はいくつかの記事に意味の変化をもっている。コ「子」と言う単語は小さいと言う意味で、ギャル(girl)と言う単語は恋人または女の子と言う意味である。コギャルの意味は「小さい恋人」または「小女」である。(Kogal- Go Japan Go).

「ギャル」の用語は若い女性の新しいファッションとして1970年に現れた。「コギャル」の用語は1990年によく呼ばれ始めた。現在は「コギャル」の用語は簡略化されて、「ギャル」になった。そして、20世紀半には若い女性にコギャルファッションとして呼ばれている。(Japan Street Fashion: Kogal - Fashion Dos and Don’ts – Zimbio, 2009).

コギャルは学校が好きではないし、規律も守らないし、自由なことを楽しんでいるし、学校の規則に違反する女子高校生として知られている。例として、髪の毛をカラーにしたり、スカートを短くしたり、体や顔に穴を開けたり、そして集中に仕事をするため学校をさぼる。しかし、彼

女たちは家族の経済が十分ではないまたは悪い家族の背景があるわけではない。(Nur, 2003:60)

コギャルの活動するセンターは、原宿、渋谷、池袋、または周りの近くの地区で見つけることができる。彼女たちは安いカラオケやファーストフードやブランド品などの賑やかな所でよく見られている。彼女たちは通常、このファッションの中心で買い物をしたり、皆と集まったり、お金を費したりする。特に、渋谷109と呼ばれるデパートストアーに集まっている。このデパートストアーは、若者たちの間で非常に人気がある。しかし、夏の間、コギャルの活動はそこにほとんど見つからない。彼らは海で日光浴をして夏を過ごすことが好きだ。(Kogal- Go Japan Go).

2.4 コギャルの分類

2000 年以来、ギャルは、概略的に二つに分けられて、白ギャルと黒ギャルである。白ギャルは普通の女の子として自分自身を評価する。彼女たちは将来をまだ気にする。白ギャルは、自然な白色を彼女たちの肌のままにしておく。

黒ギャルは高校生またはコギャルの子孫である。コギャルのファッションの特徴はミニスカート、ルーズソックス、とガングロのメイクアップである。ガングロの意味は「ガンガン黒い」で非常に黒いを意味とする。しかし、「ガン：顔　グロ：黒い」黒い顔とも解釈できる。ガングロの顔の化粧は暗い白粉の下敷から得て、または日焼けサロンへ行った後に浅黒い肌を持っていた。

お姉系-ギャルは白ギャルのタイプから大人になって育った女の子である。そして、彼女たちの着用している衣服は大人の服のように見え始めた。お姉系-ギャルタイプは渋谷 109 から衣料品のブランドを着けて

いる。お姉系-ギャルの間で、可愛いファッションモデルを着用しているギャルはまだいる。

その間に、年々、黒ギャルの人数が減少する。しかし、彼女たちの一部は新しい黒ギャルのグループを創造することに変わって「ヤマンバ」と言う。ヤマンバの単語は祖母山を意味とする「山姥」と言う単語から来ていた。ヤマンバ-ギャルは白髪と浅黒い肌である。彼女たちの外観は山へ追放されたお祖母ちゃんのように見えるので、その名前はヤマンバと言う。ヤマンバ-ギャルからアフリカンバ、セレンバ「黒有名人」、カランバ「カラスのような黒」、そしてマリンバと呼ばれる黒ギャルが現れていて、新しいトレンドになった。(Elastic: 女性ファッション誌の分類.分析, 2007)

誰かがコギャルとして自分自身を呼び出して、彼女たちの場合はギャルと呼ばれるのためにふさわしい年齢がまだ考えらている。しかし、ギャルの年齢制限を超えた年齢の後に、彼女たちは自分自身でギャルのサブカルチャーから出てしまうだろう。

2.5 コギャルのファッション

コギャルはファッションを通じてサブカルチャーのアイデンティティを表現するために、特別な外観を表示していた。そして、コギャルのファッションと言う新しいファッションを創造した。これはコギャルの人物について説明して日本の若い女性のファッションの用語である。コギャルのファッションは、可愛くてトレンディな外観を持つまたはルーズソックス、制服船員の形をすることができる。通常、目だった模様でショートパンツまたはスカートとタンクトップの形をした。そして、靴のハイヒールは「厚底」と知られている。時々、ブランドのあるスタイル

スカーフと皮のジャケットとベルトで付属品にしている。厚化粧で、爪がカラフルに塗られて、香水とほとんどの身体にアクセサリーを付けている。例えば、耳飾り、腕輪、首飾り、指輪、ヘアアクセサリー、衣服、眼鏡などである。

コギャルのファッションの一般特徴とは、

①．制服船員

コギャルは、通常、膝上の短いスカートで制服海軍のような一種の制服を着用した。その高校によって色とモデルを合わせた。

②．ルーズソックス

ルーズソックスは、日本が人気のある緩い靴下の一種である。1995 年に日本で普及するようになって、広くて長い形状「膝に届いた」で、故意に足を暖める器具のような脛の下まで長くのびている。白いルーズソックスは若い女性の間で最も人気があり、通常、黒い靴とともに着用されている。ルーズソックスは、通常、学校の女性の制服とともに着用されたが、その後ルーズソックスは大学や学校の外にいる若い女性の間でファッショントレンドになり始めた、特に 1990 年末にコギャルが着用した。ルーズソックスは非常にスタイリッシュで、足が長く見えるようにすることができた。

③．厚底

厚底は厚いと言う意味がある「アツ」の単語から来て、底はヒールの靴を意味とする。厚底はヒールの厚い靴として解釈することができる。厚底は 25～30 センチに達したハイヒールの靴を呼び出すために使用される用語である。厚底は、1996 年に日本で現れたとついてされていて、学校の制服を着用しない外観でコギャルの間で使用されていた。

それがトレンディだと考えられたので、不足している身長を隠すことができて、足の形がもっと長く見えるようになった。

④．茶髪

茶髪は、茶色のブロンドで染められた髪すなわちコギャルの間で人気がある髪の色である。茶髪は「ブリーチング」と言う方法で作られて、すなわち元の髪の色を白くする、または着色「染色」をする。茶髪は、90 年代の初めに現れた。もともと茶髪は中等学校の女子の間で知られただけである。しかし、現在から若い女性から若い男性まで幅広く知られて、その色は色々で通常、服の色やモデルに合わせられた。

⑤．アクセサリー

彼女たちのファッションの欲を満たすために、コギャルもバッグとブランド腕時計を消費した。例えば、GucciやLouis Vuttonは非常に高価で有名なブランドである。または、優れた最新の携帯電話は彼女たちのライフスタイルを支援した。 (http://indoculture.wordpress.com/2009/08/23/kogyaru-gadis-sma-di-jepang).

そのように、コギャルはファッションを紹介した。ミニスカートの形をして、彼女たちの制服になって、膝まで届いた白いルーズソックスで、それが、コギャルのファッションとして知られていた。だから、コギャルはファッションのイデオロギーの形をするだけと言うことができた。イデオロギーがサブカルチャーのアイデンティティを創造して、消費のライフスタイルで女子学生のファッショントレンドを紹介した。

2.6　コギャルの仕事の定義と動機

パートタイムで働くのはお金をもらうために日本の若者たちの一般的な特徴となっていた。ますますより高くなっているライフスタイルであるし、社会にある製品やサービスの多様性であるし、また、決して終わらない商品とサービスの需要と願望である。その若者たちの問題に対処するためにパートタイムで働くことを適切な解決とした。若者たちによって行われているパートタイムの仕事の種類は様々な仕事であって、特にサービスが優先されている。例として、売り子や会計係やモデルなどである。

若者たちにとっては、学校を続けないことにした 10 年代から 20 歳までの者は、日本語で「フリーター」と呼ばれるパートタイムの仕事のようにのんびりと働くことを選択した。フリーターは頭も絞ったり時間もかけたりしないでのんびりとした仕事が好きな日本のほとんどの若者たちによって行われている。

フリーターとは「フリー」と「タ」の「タイム」と言う単語から来た。「フリー」は日本語で自由と言う意味である、また、「タイム」は日本語で時間と言う意味である。フリーターの用語は、約 15-34 歳に低賃金と低技能でアルバイトをしているまたは働いていない人々を呼ぶために使用される。フリーターの労働時間の合計は固定していないし、様々な種類であるし、専門的にしないし、彼女たちは通常、時間の余裕を埋めるために働いている。

(http://www.hackwriters.com/freeta.htm).

フリーターの理解はアルバイタと異なっている。Kittredge (2002) は、概略的にドイツ語から「arbeiter」の単語から来た「アルバイタ」を書いた。その意味は労働者と「タイム」からとった「タ」で、時間と言う

意味である。この用語は、日本にはデパートの売り子の求人広告に1954年に現れていた。アルバイトの労働時間の合計は週あったり35時間である。

コギャルのような若い女性は彼女たちのライフスタイルを支援するためにフリーターの仕事をたくさんやっている。しかし、彼女たちの何人かは、お金持ちである両親の背景に頼って、またはパラサイトシングルと呼ばれる。

パラサイトシングルは自由で快適な生活を楽しむために、30歳までは両親と一緒に住んでいる人々のための英語の用語である。この人々は通常、働かないで両親から収入を受け取る。(Hackwriters.com - The Parasite Single of Japan).

しかし、コギャルの実際の動機はブランド品を買うとお金をもらうために働くことではない。彼女たちは、社会において実際のアイデンティティを表示したいし、ファッションやブランド品を通じて、日本の現代の若者たちのサブカルチャーの一つとして知られていたくて、認められたい。ですから、彼女たちは基本な目的と理由としてファッションを置くために働く。その間に、ファッションは継続的に進化してと変化をもっている。その上、コギャルのことも彼女たちの威信を維持するためにファッションを消費し続けている。このように、コギャルの自分自身にくっつく消費の性質だと言われている。

コギャルが最も好きな仕事は渋谷109にあるブラセラ店で働く売り子になることである。ブラセラは、可愛いランジェリーモデルを多種類で販売している店である。さらに、パジャマ、制服船員と水着も販売している。その仕事は特別な技能を必要としない上に、フリーターのような売り子の仕事なので賃金が低くなっている。売り子の職務は会計係と服

のビデオモデルであるし、新しいトレンドを作成するためのデザイナーである。実際は高い教育をもっていないしお金持ちである家族から来ていない。(Part-time jobs: The Experience of Japanese College Students, 1999)

2.6.1 援助交際

援助交際は日本の近代人たちの性生活で疑われている製品の一つである。「援助：扶助、交際：交わり」から交わりの扶助として概略的に翻訳した。若い女性や若い中学校生や高校生が約 14-18 歳、年上の男性と会って、これらの品物を購入するお金や高価な贈り物を得るために彼たちとデートをやっている。デートは何でもやることができる。例として、公園を歩いたり、飲みながら雑談したり、夕食したり、それから、セックスなどである。(Weston, 2004)

援助交際の活動は「デートクラブ」と言うクラブから来ていた。デートクラブとは援助交際に関与している日本の若い女性のクラブのために使われる用語である。このクラブでコギャルは経験や情報交換をしたり、また互いの相互作用している。デートクラブから、電話クラブと言う援助交際の用語で非常に人気があって新しいクラブが出現した。日本語の略語では「テレクラブ」と言われた。このクラブで起こっている相互作用は電話の補助を使用して、コギャルと相手の間に援助交際をつなぐため非常に大きな影響を与える。(www.hackwrites.com/Enjokōsai,htm)

コギャルとロリコンの間の直接会合は通常、渋谷の周りでたくさん発見されるデートクラブから始められた。例として、カフェとブラセラの店である。会合の後、近くのバーとカラオケの場所で飲みながら雑談し続ける。その時に、コギャルとロリコンの間に起こっている社会的な相互作用は一般的に友情関係のように形成された。時々、コギャルは　その成人に彼女の問題と自分について語って、逆に相手からそう言うこと

もある。しかし、時々、その交渉は次のデートのため、直接、価格の話に入る。援助交際で一般的な料金は通常、一度セックスをすると言う意味でデートをやっていたら約 30,000～50,000 円ぐらいかかる。合意されたら、彼女たちは二人の間に社会的な関係を維持して、次のデートの時に連絡することができるように互いに携帯電話の番号を教える。

ウェストン（2004）は援助交際の発生に関する二つの要因を言及する：

1．男性たちは可愛い女子学生が好きで、「ロリータ· コンプレックス」と呼ばれるデートに支払っても問題がない。日本語で略語されると、「ロリコン」になった。ほとんどの彼たちは未婚している 30 歳のサラリーマンである。私たちが知っているように、日本の人々は一生懸命に仕事をしているまたはアメリカ人によって Workalcoholic とよく呼ばれた。日本では労働時間が大変長いのは、日本人がめったに異性と相互作用しない原因になった。可愛いコギャルを見た時、日本の男性に感じられている孤独は「たまらない」感を誘発させる。その願望は毎日、日本の男性に路上で制服船員の若い女性を追いかけさせる。デートに彼女たちを誘うために、多額のお金と高価な贈り物を提供する。ほとんどの彼女たちは多額のお金による誘惑に負けたので、ロリコンの男性によって提供されたデートを受け取った。このことは、経済の問題によって消費の運動が堰止められた若い女性の原因である。その後、これらの若い女性を働かせるために強制した。援助交際はその問題を解決するために迅速なソリューションである。したがって、ロリコンの現象の他に、援助交際の成功もコギャルの決定に非常に依存する。これは援助交際の実行のために市場が形成された主原因である。

２．コギャルの自身に由来する。援助交際に関与するのは、ほとんど中産階級の家族から来た。彼女たちは生活の必需品を塞ぐために自分自身を売らないが、買い物で彼女たちの喜びの出費するためで「消費主義者」と言われた。

コギャルは性的活動として援助交際を事実に考えない。彼女たちはそれが「セックスを売る」と言う仕事だと考えて、私たちが知っているように仕事をしてから賃金をもらうと言う定義としてである。

一般的に私たちが知っているように援助交際は自分自身を売る、または売春のようではない。援助交際は、友情と相互理解の関係を巻き込むロリコン とコギャルの間に社会的な相互作用のように見える。そう言うことで、援助交際の中から、コギャルは物質的な最終結果に参照するデートを提供するだけではなく、しかし、コギャルも、彼女の直面している問題についてより年上の人々から注目を期待している。彼女たちは、より親しい社会的な関係を望んでいる。それに、時々、コギャルはデートの支払いを受け取ることを拒否した。内気や肉体的な魅力のためである。

ウェストン（2004）は、若い女性が自分自身を提供しているからこそ、男性たちが支払ってくれると言っていた。それだから、援助交際は近代の日本の集団的な意識に深く埋め込まれた二つの思考のモードの頂点にあって、消費主義者と性的を崇拝した点で、彼女たちが互いに補完し合う。 (Enjo Kosai' – Sex, Schoolgirls and Consumerism in Japan, 2004)